



『症状はないけど怖い…隠れ脳梗塞(ラクナ梗塞)』

しもじ内科クリニック院長
下地 栄壮



“ラクナ梗塞”を知っていますか？ラクナ梗塞は脳梗塞の一つですが、脳の細い血管が詰まって起こる直径15mm以下の小さな脳梗塞です。

ラクナ梗塞は、脳の神経細胞のダメージを受ける範囲が小さいため症状が現れないことが多く“無症候性脳梗塞(隠れ脳梗塞)”とも呼ばれています。ただし、症状がなくても本格的な脳梗塞や脳出血を発症したり、小さな脳梗塞が増えることにより認知症になる場合もあります。高齢者に多く、男性に多いという特徴があります。

認知症で最も多いのはアルツハイマー型認知症ですが、その次に多いのが“血管性認知症”です。血管性認知症は、脳の血管が詰まることにより脳の細胞に必要な酸素と栄養が運ばれなくなるために、脳がダメージを受けて認知機能に障害が起こります。

血管性認知症の症状としては、記憶障害や歩行障害・転倒、頻尿・尿意切迫、麻痺、感情が抑えられなくなる感情失禁などがあります。また、認知症の症状に“まだら状態”がみられるのも特徴です。例えば、興味のあることはよく覚えていても興味のないことは全く覚え

ていないとか、朝と夜で別人のように認知機能に差が出るということなどがあります。

【ラクナ梗塞の原因】には、加齢、高血圧、糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病、過度の飲酒、肥満、運動不足、喫煙、ストレス、家族歴などがあります。この中でも最大の危険因子が“高血圧”です。高血圧が長く続くことで動脈硬化が進行し、ラクナ梗塞を発症しやすくなります。

【ラクナ梗塞の治療】は、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの危険因子の管理を厳重にすることです。高血圧の場合は、塩分を控えるなど食生活に注意して、ウォーキングのような有酸素運動を1日に30分程度継続し、禁煙や過度の飲酒を控えましょう。降圧薬が必要と判断された場合はきちんと服用して下さい。

ラクナ梗塞は、脳ドックなどのMRI検査で見つけることができます。ラクナ梗塞の原因に心当たりがある方は、MRI検査を受けることも検討しては如何でしょうか？



お知らせ

6/18(土)は学会参加のため **13時までの診療**とさせていただきます。ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願いいたします。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)
TEL:092-605-6300